

## 可変的な映像作品 『#まなざしのかたち』

〈あいだのまなざし〉から導かれた方法によって制作された映像作品『#まなざしのかたち』(写真37～43)は、農学者 田中樹(摂南大学 農学部 教授)と文化人類学者 清水貴夫(京都精華大学 人文学部 准教授)の調査地であるアフリカや東南アジアにおける様々な人間活動を記録した映像を基にし、「余白」的なものを捉えるために、あえてはっきりとした物語や主題にまもらないような断片的なことがらとしてフィールドを撮影した映像に、独特な編集とポストプロダクションを付け加えた、可変的な映画のような作品である。

この作品には、ふたりの語り手が存在する。アフリカや東南アジアで研究者の活動を記録しながら自身の体験をつぶやく男性のカメラマン、それからこのカメラマンが記録した映像を見ながら思索する女性の鑑賞者である。カメラマンの語りは、基本的に僕のフィールドでの撮影体験について綴った日記のようなテキストに基づいている。鑑賞者の語りは、映像素材を何度も繰り返し見直しながら僕が考えていたことや被写体となっていた研究者が綴ったテキストに基づいている。加えて、両者の語りは、本作の編集のプロセスで響き合いながら、ときに小説のようにフィクショナルな変容も含んだものとなっている。

本作のねらいは、フィールドでの撮影体験において、研究の「余白」にあるものを芸術の文脈に投げ返すことによって、その撮影体験を「余白」ではなくむしろ「中心的なもの」として扱うための映像メディアの独自の使い方を提示することにある。ふたりの研究者に同行しつつ、あえて

はっきりとした物語や主題にまもらないような断片的なことがらとしてフィールドを撮影した映像をもとに、独特な編集とポストプロダクションを付け加えた映像を制作することによって、鑑賞者に、当事者と非当事者の「あいだ」にいたり、「ここ」と「あそこ」のあいだにいたりということについて、考察する時間を生み出すような映像の制作を目指した。

### クレジット

作品名：#まなざしのかたち | 時間/制作年：124分/2021年  
 撮影地：ブルキナファソ、タンザニア、ケニア、ベトナム、セネガル、日本  
 監督・撮影・録音・編集・製作：澤崎 賢一  
 企画・製作：一般社団法人リビング・モンタージュ  
 出演：田中 樹、清水 貴夫、須田 征志、宮崎 英寿、Julien Sawadogo (Tilmnenga), Aboudulaye Ouedraogo, Lamin, Zakaria, Hamidou Sawadogo (Imam), Ahamed (Rastafarian), Baay Fall Ndem, Jeremiah Saitabau Tanin, Benedict P. Mapunda, Jacob B. Chadibwa, Oumarou Ouedraogo  
 コメントリー：Habaco, mon  
 撮影：田中 樹、清水 貴夫、須田 征志、Lamin, Zakaria  
 カラーグレーディング：苅谷 昌江 | 音響調整：岡本 遼  
 謝辞：高橋 悟、石橋 義正、佐藤 知久、井上 明彦、長谷 正人、Melanie Jackson, Johnny Golding, 溝口 大助、手代木 功基、Benoit Hazard, Christin Adongo、高木 佳子、Huynh Thi Thuy Tien  
 謝辞：京都市立芸術大学、総合地球環境学研究所、一般財団法人 地球人間環境フォーラム、風人土学舎、京都精華大学 アフリカ・アジア現代文化研究センター、摂南大学、Royal College of Art  
 助成：公益財団法人 トヨタ財団、公益財団法人 日本文化芸術財団、公益財団法人 野村財団、文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」



写真38：ブルキナファソのコングシで、酒を呑む清水貴夫



写真39：ブルキナファソ、異様な距離感でカメラの視線を意識する子どもたち

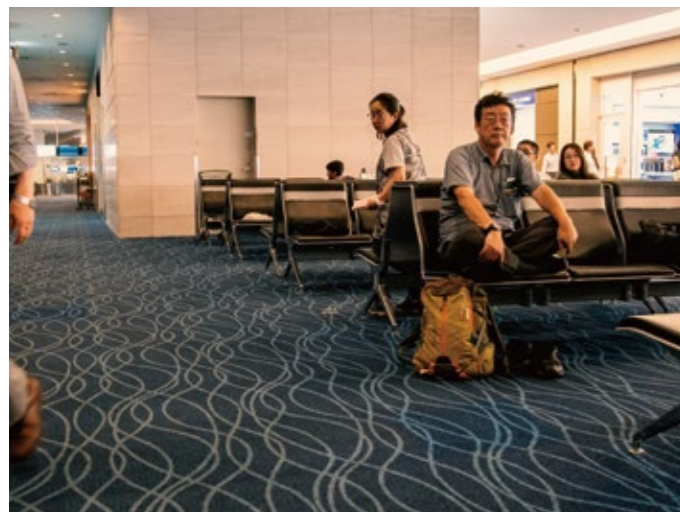


写真40：タンザニアに向かう空港で、移動と移動の「あいだ」にあぐらする田中樹



写真41：タンザニアのマーケットを歩く田中樹

